



目次

- I 概況
 - 1. 沿革
 - 2. 事業所一覧
- II 基本方針
 - 1. 組織・会議
 - 2. 職員状況
- III 運営報告
 - 1. 事業部全体
 - 2. 各事業所
- IV 地域貢献活動
- V 教育研修
- VI 令和5年度 事業計画

I 概況

1. 沿革

昭和 56 年 5 月 (1981)	精神障害回復者社会復帰施設「はまゆう寮」開所
平成 5 年 6 月 (1993)	沼津中央病院精神障害者共同住居「カーサかぬき」開所（家族会運営）
平成 9 年 4 月 (1997)	グループホーム「ふじみ」開所
平成 14 年 2 月 (2002)	田方・ゆめワーク開所（通所授産施設、地域活動支援センター）
平成 14 年 4 月 (2002)	「コーポ狩野」福祉ホーム B 認可
平成 15 年 4 月 (2003)	地域生活支援センター「なかせ」開所 地域生活支援センター「いとう」開所
平成 16 年 4 月 (2004)	サポートセンター「ほっと」開所 グループホーム「ふじみⅡ」開所
平成 17 年 10 月 (2005)	「カーサかぬき」から法人運営としてグループホーム「カーサ岡の宮」開所
平成 18 年 3 月 (2006)	サポートセンター「ほっと」移転
平成 18 年 10 月 (2006)	障害者自立支援法に基づき各名称をサポートセンターゆめワーク・なかせ・いとうに変更
平成 20 年 4 月 (2008)	サポートセンター「いとう」伊東市観光会館へ移転
平成 20 年 5 月 (2008)	就労継続支援 B 型事業所「就労支援事業所かのん」開所
平成 21 年 4 月 (2009)	小規模作業所「ワークショップまごころ」開所
平成 22 年 4 月 (2010)	「ワークショップまごころ」就労継続支援 B 型事業所へ移行 従たる事業所「クリーム・ド・クオーレ」開所 サポートセンター「ほっと」移転
平成 23 年 4 月 (2011)	サポートセンター「なかせ」三島分室開所
平成 24 年 4 月 (2012)	「就労支援事業所かのん」事務所・作業所移転 通所授産施設「田方・ゆめワーク」就労継続支援 B 型事業所へ移行
平成 27 年 4 月 (2015)	サポートセンター「なかせ」長泉分室を長泉町役場内に開所
平成 28 年 3 月 (2016)	「コーポ狩野」新棟完成・移転、ケアホームコーポ狩野からグループホームコーポ狩野へ名称変更
平成 29 年 5 月 (2017)	サポートセンター「いとう」熱海駅前の熱海第一ビルに移転
平成 30 年 4 月 (2018)	サポートセンター「ほっと」富士市日乃出町へ移転 サポートセンター「なかせ」三島分室 2 階から 4 階へ移転 「ワークショップまごころ」同ビル 2 階に作業所増設
令和 元年 8 月 (2019)	グループホームコーポ狩野サテライト（フルール）開所
令和 2 年 4 月 (2020)	サポートセンター「なかせ」三島分室を組織改編、名称変更し、サポートセンター「ひまり」開所
令和 2 年 10 月 (2020)	サポートセンター「なかせ」自立生活援助事業開始
令和 3 年 3 月 (2021)	サポートセンター「なかせ」長泉分室閉所
令和 4 年 6 月 (2022)	グループホームコーポ狩野サテライト（フルール）閉所
令和 4 年 8 月 (2022)	グループホームふじみⅡ閉所

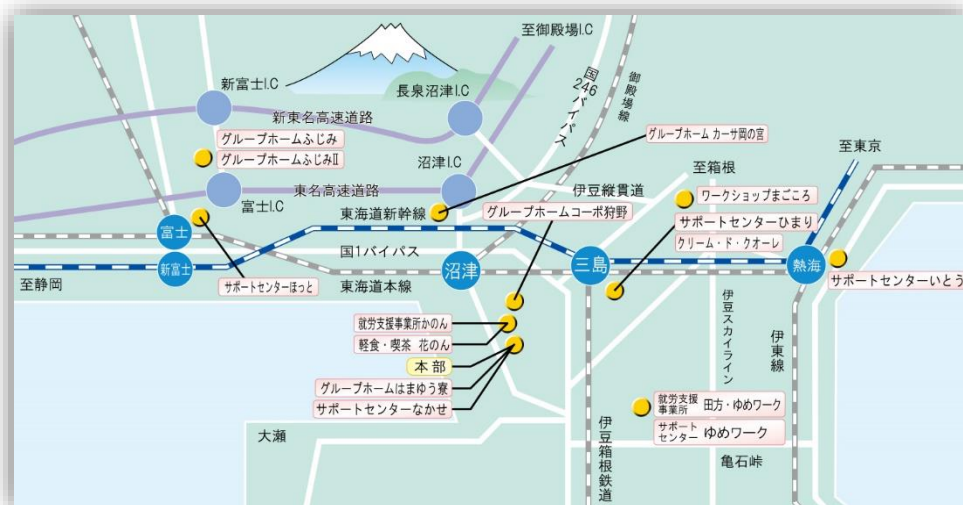
2. 事業所一覧

本部

沼津市中瀬町 17-11

〒410-0811 TEL055-931-7032

FAX055-934-1697



相談支援・地域活動支援センター

サポートセンター

なかせ 沼津市中瀬町 17-11

TEL055-935-5680

FAX055-935-6150

いとう 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F

TEL0557-82-5680

FAX0557-82-5681

ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

ほっと 富士市日乃出町 165-1 サンミック静岡ビル 104

TEL0545-32-8160

FAX0545-32-8165

ひまり 三島市一番町 7-19 高野ビル 4F

TEL055-991-1180

FAX055-991-1181

共同生活援助

グループホーム

カーサ岡の宮 沼津市岡宮 612-1

はまゆう寮 沼津市中瀬町 17-11

ふじみ 富士市厚原 1138-6 ムーンビームス

コーポ狩野 沼津市中瀬町 24-1

TEL055-933-1038

FAX055-933-3955

就労継続支援 B 型

かのん 沼津市中瀬町 19-20

TEL055-933-8500

FAX055-933-8501

(軽食・喫茶 花のん) 沼津市中瀬町 18-28

TEL055-933-8502

ワークショップまごころ 三島市字エビノ木 4745-456

TEL・FAX055-985-2666

(クリーム・ド・クオーレ/作業所) 三島市一番町 7-19 高野ビル 1F/2F

TEL・FAX055-976-9000

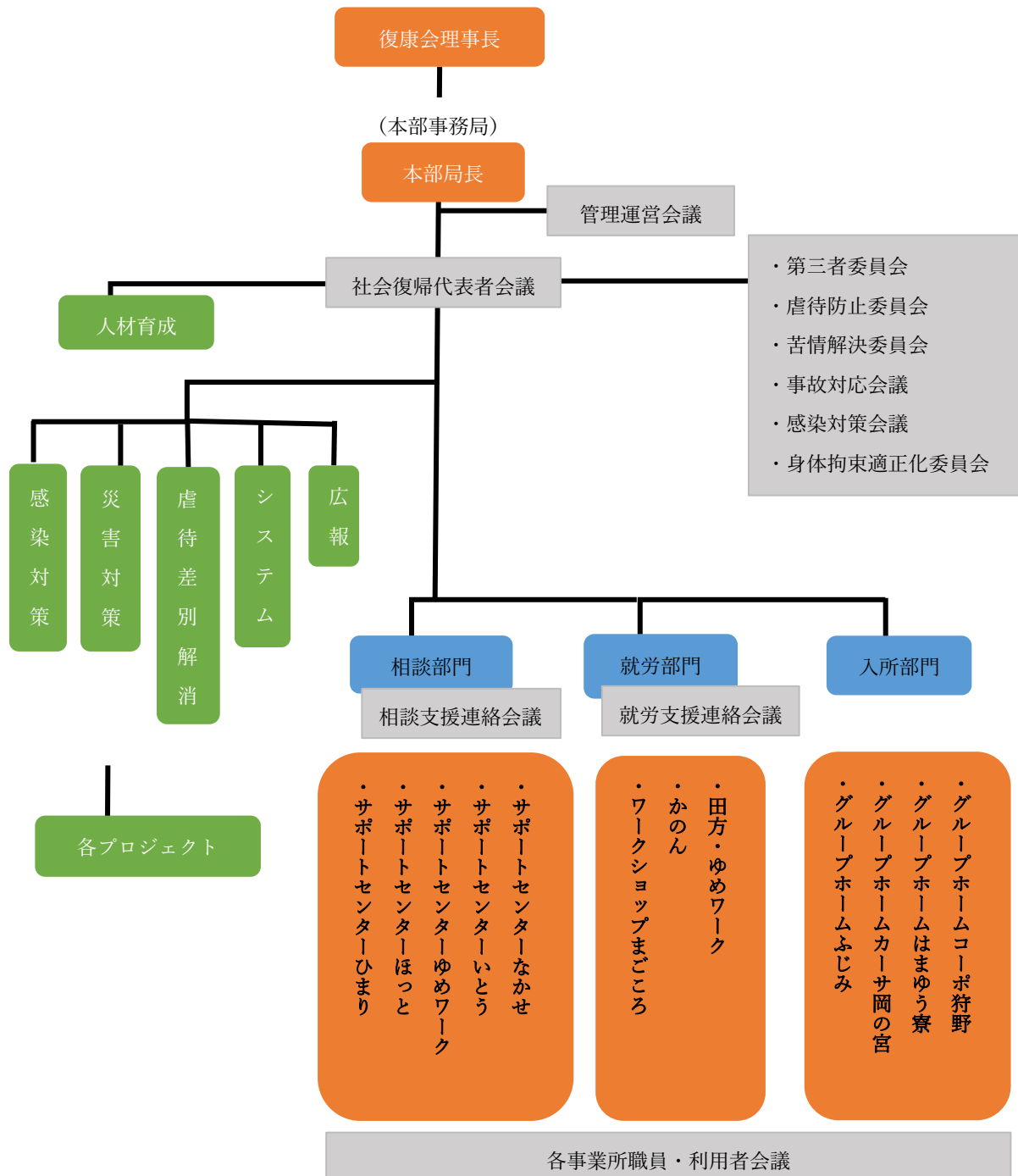
田方・ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

Ⅱ 基本方針

1. 組織、会議



2. 職員状況

① 令和4年度入職者（他部署から事業部への異動も含）

正：2名

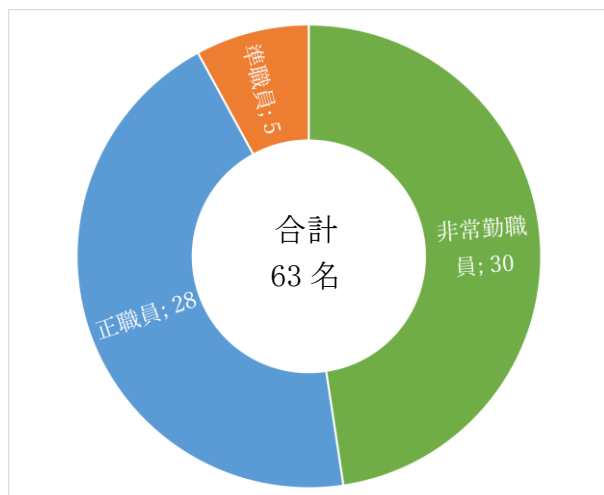
準・非：2名

② 令和4年度退職者（他部署へ異動も含）

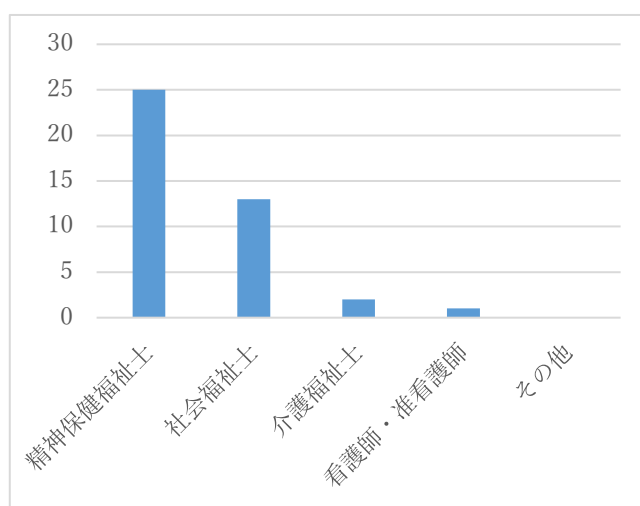
正：3名

準・非：5名

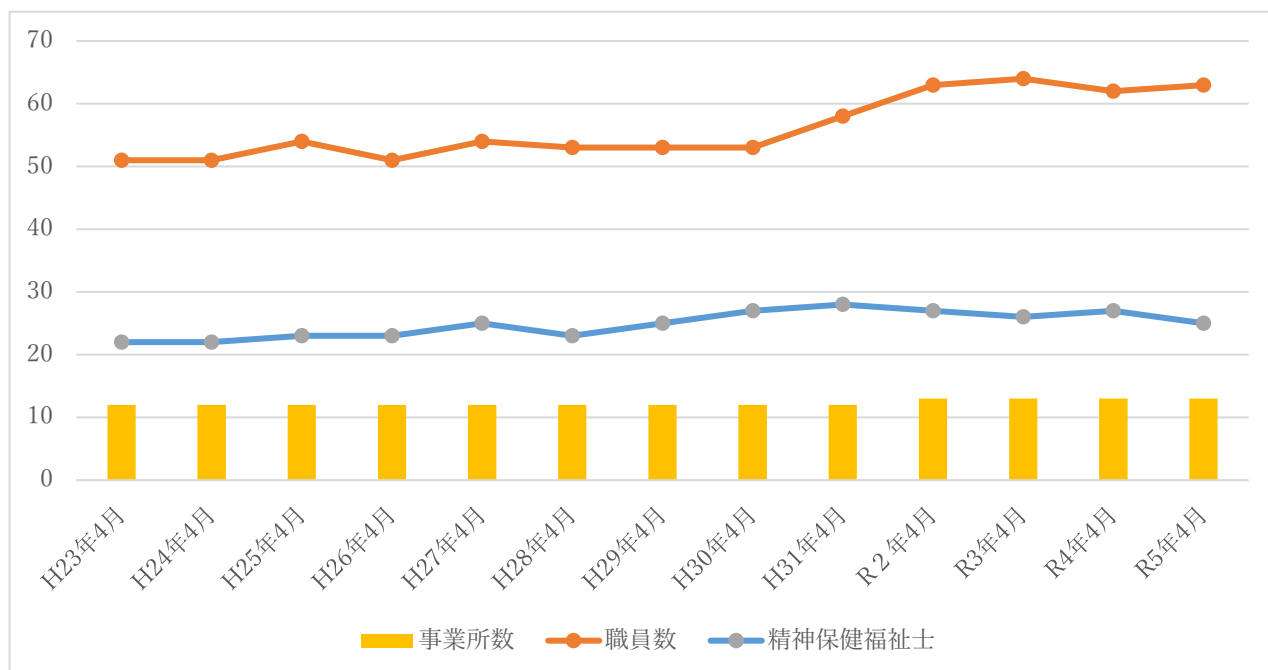
③ 正・準・非職員比（R5年4月1日）



④ 有資格者（重複有）



⑤ 職員状況等経過



Ⅲ 運営報告

1. 事業部全体

令和4年度の目標達成度

運営方針

誰もが自分らしく暮らす事の出来る地域共生社会の実現を目指します

そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、利用者に寄り添う支援を行う事で地域共創に努めます

また、地域や利用者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員と共にデザインする事でチーム意識ややりがいを持てるように、組織の強化に取り組みます

重点目標

- ①利用者の特性や希望を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、つながり、支え合い、寄り添うサービスを提供
- ②「当たり前」の業務を見直し、利用者・職員と共に必要なサービス・事業を再編
- ③災害等の緊急時に備えた事業所間の連携の強化
- ④人材確保のためのリクルート体制整備

令和4年度は事業部全体に職員のコロナ感染が広がり就労事業所で約1週間休業となったが、事業所間での連携、それぞれの事業所での努力により拡大することなく山を越える事が出来た。

共同生活援助事業の一部廃止や届出事業が運用に至らなかった等、運営としてはマイナスとなる状況があり、地域のニーズや利用者の思いと事業所運営のバランスの難しさを感じている。人材については、今年度も新規職員の確保に苦労した1年でありリクルートの体制整備は出来なかったが、次年度は「ここで働きたい」と思っただけの事業部作りを行っていききたい。

事業部職員人材育成

①職員研修

今年度もコロナ感染予防のため、共通テーマに沿って事業所ごとに研修を行った。

共通テーマとして、「虐待防止・権利擁護研修」「感染対策研修」を企画し、共通の動画や資料を使いながら、それぞれの事業所に合わせた実技を取り入れる等工夫を凝らした研修が出来た。地域での人材育成研修も少しずつ再開されるようになり、地域の研修で学ぶことも多かった1年であったが、特に虐待防止や権利擁護については、職場の雰囲気や現場での実践が大切となるため、今後も事業所単位での研修を積極的に取り入れていきたい。

その他、それぞれの事業所職員が出席した外部研修についても、集合での報告会が実施できない代わりに、資料等を他事業所職員が閲覧できるように共有ファイルを作成した。

②目標管理シート作成

毎年事業部全体の重点目標⇒各事業所の事業目標⇒全職員の目標を年度初めに掲げ、年2回事業所管理者と面接を行いながら目標達成度を確認している。全ての職員が自身の目標を掲げる事で、本人も管理者も1年間の達成が見える化しやりがいやスキルアップにつながっている事を実感する。

③県法定研修受講

相談支援従事者初任者研修

相談支援従事者現任研修

主任相談支援専門員研修

サービス管理責任者更新研修

虐待防止研修

虐待、苦情件数、報告会等

今年度も第三者委員との報告会は、コロナ感染拡大により中止とした。虐待報告はなかったが、事業部全体で苦情要望が11件あった。グループホームなど生活の場では他利用者との関係についての苦情が多く、日中活動や訪問系では対応への苦情や要望があがった。虐待防止委員会で共有し、改めて対話の重要性や職員間の支援の共有を周知した。



ふくむすび（事業部広報誌）

事業部全体の広報誌（月 1 回）を発行。今年度も 12 回発行。

《トピックス》

- 4 月 「(三島市) 基幹相談支援センター 官民共同運営から 1 年を振り返って」
サポートセンターひまり
- 5 月 「花のんの日替り弁当全メニュー大集合」
就労支援事業所かのん
- 6 月 「熱海グルメ・スポット紹介」
サポートセンターいとう
- 7 月 「コーポ狩野レク 交流会」
グループホームコーポ狩野
- 8 月 「令和 4 年度富士市障害者自立支援協議会」
サポートセンターほっと
- 9 月 「クオーレのジェラートはいかがでしょう
か」
就労支援事業所ワークショップまごころ
- 10 月 「令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート
研修開催」
サポートセンターなかせ
- 11 月 「フレッシュベーカーリーゆめワーク 大盛
況」
就労支援事業所田方・ゆめワーク
- 12 月 「秋ふく祭り 2022」
秋ふく祭り実行委員

令和 5 年

- 1 月 新年あいさつ
- 2 月 「就労支援事業所田方・ゆめワークの紹介」
就労支援事業所田方・ゆめワーク
- 3 月 「サポートセンターいとう 20 周年記念」
サポートセンターいとう

（委託事業）

駿東田方圏域スーパーバイザー事業

平成 25 年度より静岡県の委託を受け、駿東田方圏域（6 市 4 町）の広域的課題の共有や、障害福祉サービスの総合的調整及び推進等に関して協議・検討する体制の整備を県と共に実施。

令和 4 年度は各市町で設置が進んでいる地域生活支援拠点と基幹相談支援センターの整備について、圏域推進部会・相談部会を活用し情報共有を図るための資料を作成し、他市町の状況を整理した。令和 4 年度から県は精神障害者ピアサポート養成研修を開催したが、圏域地域移行部会としては、ピアサポーターの土台となる仲間活動を中心とした交流の機会を 2 か所の地域で実施し、市町への「にも包括」の意識付けが進んだ。

長泉町重層的支援体制整備 準備事業

令和 4 年度より長泉町の委託を受け、長泉町重層的支援体制整備事業設置準備のお手伝いをさせていただいた。地域共生社会を目指した国の事業を長泉町としてどのような体制で整備していくのか。まずは町の特徴やニーズをヒアリングし、そこから課題を抽出した。次年度には包括的な相談支援体制と地域づくりを具体化して正式な事業の設置を目指したい。

長泉町 重層的支援体制整備事業設置を目指して



（世界一小さい公園）

2. 各事業所活動報告

グループホーム コーポ狩野

1. 目標及び評価

1. 利用者の主体性や個別性を尊重し、夢実現の障害に対応できるスキルを身につけて支援に取り組む
2. 地域や関係機関から信頼を得られるよう、地域資源の一員としての役割を発揮する
3. 感染症や災害に対する必要な対策を講じ利用者とスタッフの命・暮らしを守る

- ・個別支援会議を定期的に開催した。個別性の高い直接的な支援を要する場面が多く、利用者の夢や希望を考慮した支援やスキルを身につけることは出来なかった
- ・コロナの影響が大きかった昨年度までと比べ、町内清掃等の地域行事への参加が可能となった。また、相談支援事業所等の関係機関とも情報共有を直接行う事が出来、改めて連携や互いの信頼関係の大切さを感じた
- ・自立支援協議会地域移行部会では市内グループホームが抱えている課題を取り上げ、個々の事業所が出来る対処法や活動・実践の成果について協議した
- ・利用者自身が行う感染予防対策の周知、ワクチン接種や抗原キットによる状況の把握、感染が発生した時や吐物処理に至る対応について部署内で勉強会を開催した

＜職員配置＞（令和4年4月1日付）

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	2	5
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/専従	常/非 兼務/専従

2. 実績

サテライトの利用状況を鑑み、7月に定員削減し18床とした。新規利用相談はあったもののコロナ禍の影響は大きく、日中体験のみを受け入れるに留まった。また、沼津中央病院での感染発生で日中活動が中止となった際には、日中活動を提供した。事業所内では感染が発生する事はなかったが、利用者自身の感染対策は万全とは言い難く、都度感染対策の徹底を促した。行動制限によるストレスフルな時間を過ごす中、利用者同士のトラブルに

発展する事もあり、内容や局面によっては当事者同士だけの課題とせず、ミーティング等で全員で共有し検討する方法をとった。職員が本人の考えや意見を容易に代弁してしまうのではなく、生活の主体である事を忘れずに今後のかかわりを持ち続けたい。

＜利用状況＞ 注:R4.7.1～ 定員 20→18に変更

	R2年	R3年	R4年
定 員	20	20	18
利 用 者 数	17	18	16
新規入所者数	1	1	0
退 所 者 数	0	0	2

＜男女別の入所者数と平均年齢＞

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	9名	60.7歳	60.5歳
女 性	7名	60.2歳	

＜入所期間＞

入 所 期 間	人 数
1年以内	1名
1～3年未満	2名
3～5年未満	4名
5～8年未満	3名
8～10年未満	0名
10～15年未満	2名
15年以上	4名

（令和5年3月31日現在）

3. 総括

前回の支援程度区分より重度に判定される利用者（50～60代）が多くなった。誤嚥・転倒や失禁など見守りや直接介助を要する場面が大幅に増え、精神的な不調とも相まって入院に至るケースが少なくない印象である。日常での変化の兆しが、心身の悪化や入院に繋がるひとつのサインと認識が出来ていながら、何気ない兆しに目や心を配ることにフォーカスしていないことを自覚し、反省し、次年度の課題として向き合って対応したいと思う。加齢・障害や環境が利用者にも与える変化に丁寧に支援を提供できるスキルを獲得し、今後もサービス提供が本人不在とならぬようにしていきたい。

グループホーム はまゆう寮

1. 目標及び評価

1. 利用者の個別性に配慮し、個々に合わせた支援を行う

2. スタッフそれぞれの役割を基本に、積極的に支援の業務を見つけ実行する

3. 地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する
- 生活場面では、エンパワーメントを意識して個々に合わせた声掛けや見守りの範囲を考え支援を行った
 - スタッフそれぞれが主となる役割を持ち、工夫して業務を行う事が出来た
 - 感染対策研修や防災訓練等事業所独自で実施したが、地域との協働については地域の防災訓練に参加したのみで、要配慮者として地域の理解を得る所には至らなかった

<職員配置> (令和4年4月1日付)

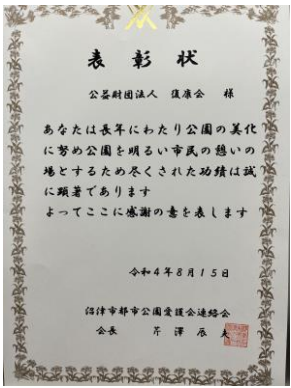
職種	管理者	サービス 管理責任者	生活 支援員	世話人
人数	1	1	1	5
勤務 形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

2. 実績

今年度もコロナ感染防止対策として、利用者の皆様にはご不便をおかけした。特に集団での外食を控えていただいたり、共有スペースについては常にマスクの着用、毎日の体調チェック等引き続きお願いし理解をいただいた。

そのような中、今年度は1名が単身生活に移行した。家族や日中活動先や経済面の調整など、退所に向けた支援は単身生活が始まったその先の人生も含めて組み立てていくが、利用者也支援者も不安な中共に戸惑いながらも希望を叶える事が出来た。

地域との交流では、毎年地域の公園清掃にスタッフも利用者也一緒に参加し、微力ながらも清掃活動に協力



している。令和4年度は沼津市都市公園愛護会様より表彰状をいただいた。

<利用状況>

	R2年	R3年	R4年
定員	9	9	9
利用者数	9	9	8
新規入所者数	1	0	0
退所者数	0	0	1

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人数	平均年齢	
男性	5名	50歳	55歳
女性	3名	59歳	

<入所期間>

入所期間	人数
1年以内	0
1～3年未満	0名
3～5年未満	2名
5～8年未満	1名
8～10年未満	0名
10～15年未満	2名
15年以上	3名

(令和5年3月31日現在)

3. 総括

今年度は単身生活への移行支援が大きな動きとなったが、日常の多くは朝起きるのが苦手だったり、お金の使い方が上手く出来なかったり、対人で悩んだりという生活の中の小さな課題に対して繰り返し支援している。

それが僅かでもご本人の希望に近づくための力になればと思う。

グループホーム カーサ岡の宮

1. 目標及び評価

1. 利用者の個別性に配慮し、個々に合わせた支援を行う
2. スタッフそれぞれの役割を基本に、積極的に支援の業務を見つけ実行する
3. 地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する

- ・生活場面では、エンパワーメントを意識して個々に合わせた声掛けや見守りの範囲を考え支援を行った
- ・スタッフそれぞれが主となる役割を持ち、工夫して業務を行う事が出来た
- ・感染対策研修や防災訓練等事業所独自で実施したが、地域との協働については地域の防災訓練に参加しただけで、要配慮者として地域の理解を得る所には至らなかった

<職員配置> (令和4年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	2
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/専従

2. 実績

今年度は前年度より医療機関に入院中で、コロナ感染拡大の影響から思う様に体験利用が進まず年度を越してしまった女性1名の新規入所があった。

そのコロナ関連では事業所内でも利用者職員共にコロナ感染があったものの、協力医療機関からの助言をいただきながら拡大防止に努め、内部感染を防ぐことが出来た。

近年身体機能の低下がみられる方もおり、買い物や受診等の同行、共有スペースの掃除など日常生活の中で、体を動かす工夫を日々行った1年であった。

<利用状況>

	R2 年	R3 年	R4 年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	8	7	8
新 規 入 所 者 数	2	1	1
退 所 者 数	0	2	0

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	3 名	57 歳	62.7 歳
女 性	5 名	68.4 歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1 年以内	1 名
1～3 年未満	2 名
3～5 年未満	0
5～8 年未満	0
8～10 年未満	2 名
10～15 年未満	0
15 年以上	3 名

(令和5年3月31日現在)

3. 総括

今年度もコロナ感染防止対策として、感染発生時の対応や利用者のワクチン接種対応に追われる1年であった。その中でも70代の利用者が8名中3名と、感染対策だけではなく身体機能に対する見守りや、認知機能の確認などに対してより注意を払う必要があり、支援者も日々情報を共有しながら小さな変化を見逃さないよう声をかけあっている。日々の生活の中でリハビリとなる活動を取り入れる等、介護の知識や技術も今後は積極的に習得していきたい。

グループホーム ふじみ・ふじみⅡ

1. 目標及び評価

1. 利用者の希望実現を目指し、応援・援助をする
2. 感染症予防対策を確実に行う

<職員配置> (令和4年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管理責任者	世 話 人	看 護 師
人 数	1	2	3	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

2. 動向

今年度は8月にグループホームふじみⅡを閉所した。近年障害福祉サービスも増えてきて、サービス利用をしながら単身生活をするのが10年以上前に比べると容易になった。そのため、グループホーム入所希望者は症状や障害がある程度残存している人や、日常的に支援を必要としている人が多くなり、グループホームふじみ・ふじみⅡの職員体制では、それらのニーズに対応することが難しく、利用者も減少していたため閉所に至った。グループホームふじみⅡ入所者はグループホームふじみへ移行し、引き続き支援を継続している。

今年度は新型コロナウイルスの影響がありつつも、日中活動や休日の余暇活動などは制限なく行っている状態である。感染予防対策も行い、陽性者がでることはなかった。

<利用状況>

ふじみ	R2 年	R3 年	R4 年
定 員	11	11	10
利 用 者 数	8	7	8
新 規 入 所 者 数	2	0	2
退 所 者 数	1	1	1

<平均年齢>

ふじみ
55.5 歳

<入所期間>

ふじみ

入 所 期 間	人 数
1 年未満	2 名
1～3 年	4 名
3～5 年	0
5～8 年	0
8～10 年	0
10～15 年	2 名
15 年以上	1 名

(令和5年3月31日現在)

3. 総括

前年度と同様であるが、利用者も持病を持つ方が多くなり、日頃からの健康管理の必要性を強く感じている。必要に応じて受診同行、医療機関との連携を行った。

幸い身体科への入院や手術にまで至るようなことはなかったが、家族へはこまめに連絡を取り、状況の共有をしている。今後も健康に関する支援は継続をしていく。

また、日常生活上では食生活や金銭管理への助言、居室の清掃等の支援を行い、対人関係の悩みなど様々な思いに寄り添っていく。

相談支援事業所

サポートセンターなかせ

1. 目標及び評価

1. 丁寧な個別支援と、先々を見越した視点に立った適切な関係機関との役割分担・連携の両立を図り、より効果的な相談支援の形を目指す

2. 諸制度・生活様式等の変化に対して周囲から求められる役割・機能を把握・理解し、より柔軟な思考をもって事業所内の業務内容を見直し整理をする

3. 個人としてのスキルアップを法人・事業所に主体的に循環していくことを意識する

4. 個別支援と並行して自立支援協議会等大局的な視点に立った取り組みに積極的に参画していく

<職員配置> (令和4年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援 専門員・サ ピ 管	相談員・支 援 員	ピ ア ス タ ッ プ
人 数	1	4	4	2
勤 務 形 態	常勤/兼務	常/専従・ 兼務	常/非 兼務	非/兼務

2. 実績

(1) 相談支援

相談内容内訳としては昨年度と大きく変化はなく、変わらず計画相談に関連した業務が大きな割合を占め、対ご本人・家族だけでなくその関係機関担当者等との調整も非常に重要な役割となっている。個別性の高い相談内容に対して迅速に対応することを心掛け、その中でも時間的な優先順位を考えスケジュール管理・セルフマネジメントしていく力は、引き続き相談支援専門員個人に求められている。目まぐるしく変化する地域の実情を把握し、各事業所のソフト・ハード両側面の情報収集に努め利用者にとっての最大の利益とは何かを意識して個別の支援にあたった。事業所内でも個別支援に関わる情報共有と共に自身の支援を見直す機会としてミーティング等活用した。

(2) 自立支援協議会

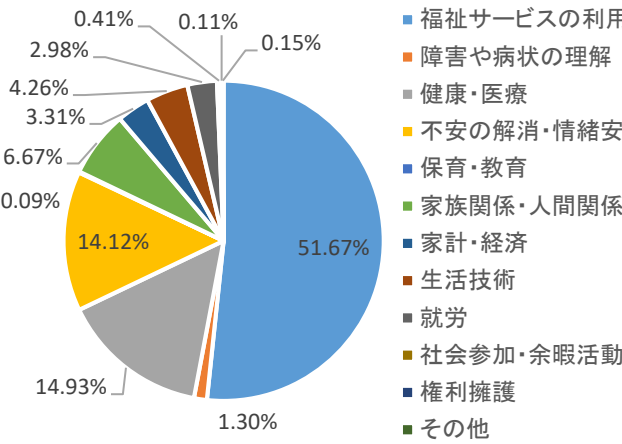
引き続き県・圏域・市町単位の自立支援協議会の活動に主体的に参画した。県の枠組みでは地域移行部会ピアワーキングに連動した活動としてピア

サポーター養成研修の運営に講師等として関わった。また圏域ではピアサポーターの裾野を広げる活動として圏域内2箇所で開催・交流会を企画・運営・実施した。市では基幹相談支援センターの体制整備に部会活動を活かし連動する形を検討した。常に連続性を意識し、年度が変わっても関連性をもった繋がりのある活動を行うことで中長期的な目標達成を実感・共有できるよう関係機関と引き続き連携していきたい。

<支援方法>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メ ー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R 2	855	280	66	2093	15	89	2792	2	6192
R 3	836	137	82	1688	17	90	2733	2	5585
R 4	899	133	87	1672	36	62	2957	11	5857

<相談内容内訳>



3. 総括

当事業所の特徴・強みとしてピアスタッフとの協働がある。まだまだ課題はあるが個別支援の積み上げを意識した様々な状況の利用者の方々への関わりと同時に、圏域内での関連した仕組み作りに並行して取り組んでいくことは、ピアサポート活動に限らず全てにおいて共通した働きかけといえる。その観点からも、地域から求められる相談支援事業所としての重要性を理解しその役割を果たしていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

1. 当事者への丁寧な関わりを大事に住み慣れた地域の暮らしを支援するために出来ることを考え行動する
2. ピア主体の活動を念頭に地域活動支援センターの活動内容について柔軟な視点と取り組みをしながら都度検討していく
3. スタッフ間のコミュニケーションを大事に個別ケースから障害理解と対応の学びを深める

＜職員配置＞ （令和4年4月1日付）

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生活支援員
人 数	1	2	3
勤務形態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

2. 実績

（1）相談支援・地域活動支援センター

今年度も伊東市・熱海市より障害者総合支援法に基づく「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」の委託を受け事業を行っている。館内の感染防止対策を実施しながら運営を続けるよう努めている。「居場所」「繋がり」を意識した事業を運営できるよう、幅広い視点を持ち、障害のある方の思いに寄り添いながら事業を行う。令和5年度より当事業所開所20周年を迎えるため20周年記念イベントを実施する。

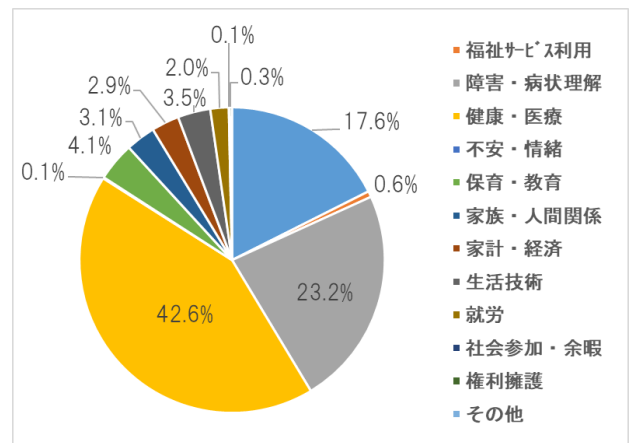
（2）自立支援協議会

今年度も精神障害部会、地域移行部会の部会長、発達障害ワーキングの担当として協議会に所属。新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインにて開催する機会が多かった。10月に沼津中央病院のピアスタッフと精神保健福祉士を招き、支援機関を対象に精神障害とともに歩んできた想いや、現在の活動についての話をうかがう。精神障害部会でも多職種との繋がりの中で新たな社会資源を知る機会となった。課題がありつつそれを形にしていく難しさを感じながらも、来年度も一つひとつ地域課題の共有や取り組みを行ってけると良いと考える。

＜支援内容内訳＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R 2	815	824	106	3656	44	40	3219	2	8706
R 3	702	673	93	3848	35	69	2646	3	8069
R 4	717	580	81	5074	55	59	2427	1	8994

＜相談内容内訳＞ 件数（※重複あり）



3. 総括

令和4年度においても福祉サービス利用に伴い担当する計画相談については、ケースによって熱海伊東圏域外の事業所に通所、グループホームに居住される対象者の計画を担当することもある。圏域外の社会資源の情報収集の機会やそこに携わる関係機関の方々とやりとりできるメリットはあるが、物理的には遠方なので今後の相談状況によってケースの整理を行う必要がでてくるかもしれない。また、日常的に相談を伺う中で就労以外の活動の場の機会の需要が多くあるように感じる。公的な福祉サービスだけでなく、障害者を問わない資源も含め視野を広げ情報収集し、「地域を知り、地域性を活かす」意識をもって来年度以降も取り組めると良いと考える。また、令和5年度は新たに事業所名を「サポートセンターりりぶ」に名称変更し、引き続き地域に根差した活動を行うよう努めていきたいと考える。

相談支援事業所

サポートセンターほっと

1. 目標及び評価

1. 状況に応じた支援を提供できるように、本人、家族、他機関と現状と支援方針を共有する機会を積極的に設ける
2. 地域移行支援を活用し、退院までのプロセスを病院と協働していける体制を構築する
3. 自立支援協議会への積極的な参加

<職員配置> (令和4年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	4
勤務形態	常/兼務	常/専従・兼務

2. 実績

(1) 相談支援

昨年度に引き続き富士市から委託を受け、「相談支援事業」を行った。相談経路は今までは各関係機関からがほとんどであったが、今年度はホームページを見て連絡をしてくる相談者が増えてきた。相談内容も少し聞いてみたかったなどの単発の相談も増えてきており、相談することへのハードルが下がってきているように感じる。また、富士市基幹センターから依頼のあった市内の特定相談支援事業所の勉強会の企画をし、講師を務めた。

「計画相談支援」も継続。新型コロナウイルスの影響も多少みられるが制限はほぼなくなり、コロナ禍以前と同様に対面での支援に戻っている。市内に新規事業所ができたこともあり、新規の依頼も増えてきている。「地域移行支援」は昨年度から2件継続。新たに4件開始。年度内に4件が終了となった。終了4件のうち1件が自宅へ退院。残り3件は本人の退院意欲が低下したことや病状悪化のため中断となった。

(2) 自立支援協議会

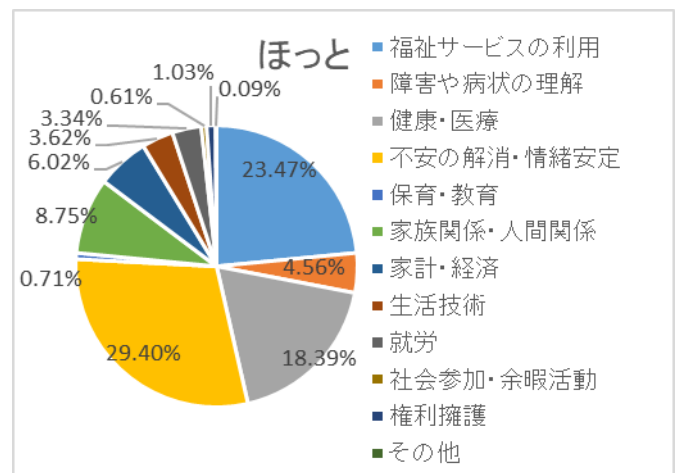
富士圏域の自立支援協議会に参加。富士市障害者自立支援協議会では、今年度より2年間の任期で会長と事務局長に就任。運営に携わり、代表者会議や

全体会議等を実施した。また、障害者週間記念事業のイベントの企画立案から、当日の運営まで担当し、障害の普及啓発に努めた。昨年より関わっていた触法真犯少年 WG では事例集の作成を引き続き行い、完成させた。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R2	157	38	42	1296	1	86	1187	1	2808
R3	415	56	67	1628	3	409	1487	0	4065
R4	371	52	60	975	6	381	1046	0	2891

<相談内容内訳>



3. 総括

今年度は新たに富士市自立支援協議会の会長と事務局長を務めることとなった。当事業所としても初めてのことで滞りなく運営することに尽力するとともに、新型コロナウイルスの影響で停滞しがちであった研修や活動も行えるようにしていった。医療機関では外出泊の制限がなかなか解除されないなか、退院支援は変わらず難航している状況にある。そのような状況にあるためか、地域移行支援は新規が4件となり、今年度の目標に掲げた病院と協働する体制作りにつながった。

相談支援事業所

サポートセンターひまり

1. 目標及び評価

1. 利用者とあたたかい関係を築き、本人の強みに着目しながら、他機関と連携し主体的に生活できることを支援する
2. 三島市基幹相談支援センターへ主体的に参画し事業所内での役割分担を行い効率化を図る
3. 地域生活拠点事業の開始を踏まえて、支援の見直しや関係機関との連携の強化に努める
4. ケース支援や事業所間での関わりを通し、支援者間のつながりを深めていく

＜職員配置＞（令和4年4月1日付）

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	3
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従

2. 実績

（1）相談支援

三島市より委託を受け相談支援事業を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年は対面での対応に十分な配慮を要した。しかし今年度は、社会情勢の影響を受けつつも生活に変化を求める相談が目立ち、全体的な相談件数の増加に繋がっている。相談内容としては新規相談、特に福祉サービスの利用希望が増加傾向。前年度と同様、就労支援や居宅介護、加えて共同生活援助の希望も目立った。また、経済問題を抱えるケースからの相談も多く、必要な支援に努めた。

（2）自立支援協議会

三島市障がいとくらしを支える協議会の運営委員として参加。今年度再び『相談&サビ管プロジェクト』が立ち上がり、メンバーとして相談支援専門員とサービス管理責任者のつながりを築く取り組みを検討し提案を行った。来年度も引き続き、新しい取り組みに積極的に参画していきたい。

（3）基幹

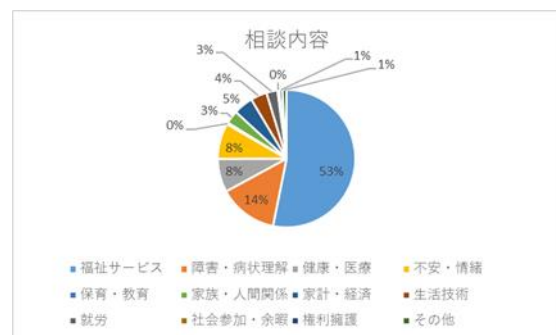
今年度も三島市基幹相談支援センターは、他相談支援事業所3ヵ所と共に官民共同体制で困難ケースの対応を行い、連携会議では企画・運営に積極的

に参画しながら、三島市内の相談支援体制強化について取り組んできた。

＜支援方法＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R2	691	149	72	705	9	80	1717	6	3429
R3	648	132	62	494	27	121	1422	10	2916
R4	705	172	63	765	48	167	2194	4	4118

＜相談内容内訳＞



3. 総括

今年度は、就労支援事業所や共同生活援助の新規利用、就労支援事業所の変更など新たなことを始める利用者が増加したため、新規の計画依頼や計画変更の対応に追われた印象がある。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで外出を控えていたが少しずつ外出の機会が増え、就労について考え始めたり、計画相談として関わってきた利用者の家庭状況に変化があったり、様々な状況変化によって将来の生活に目を向ける機会となってきたと思われる。また三島市基幹相談支援センターの担当として、毎週行われる連携会議の企画を行ったり窓口に来られる方の相談、関係機関から相談のあった困難ケースへの対応も行ってきた。基幹相談支援センターとして求められる役割も増えてきている。来年度も、自立支援協議会や基幹相談支援センターに求められる役割を積極的に担い、相談支援専門員としての質の向上も図っていききたい。また地域の課題抽出・解決に向けての検討を行い、インフォーマルな資源も視野に入れながら、災害時の支援体制や利用者が安心して生活できる地域の体制作りに努めていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

1. 当事者のニーズを汲み取り計画相談に反映させ、個別支援の充実を図るとともに、相談員個々のスキルアップに努める
2. ピアサポーターと協働し、当事者の思いに寄り添い、当事者が地域で安心した生活ができるよう、地域移行支援に取り組む

＜職員配置＞（令和4年4月1日付）

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生 活 支 援 員
人 数	1	2	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

2. 実績

（1）相談支援

センターへの相談は電話やコロナ禍のため感染症対策には十分配慮しながら来所・訪問・サテライト相談会等を通して対応した。計画相談は引き続き伊豆の国市、伊豆市の福祉サービス利用者に対して行い、対象者も105名前後と年々増加しており、より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力が求められる。地域移行支援では2件のケースについて継続して支援を行っており、次年度も退院に向けた取り組みを検討する。本年度も地域移行支援には継続して取り組む事ができている。必要に応じて対面での支援とオンラインを駆使しながら退院に向けて前向きに動いていく事ができたと感じる。

（2）自立支援協議会

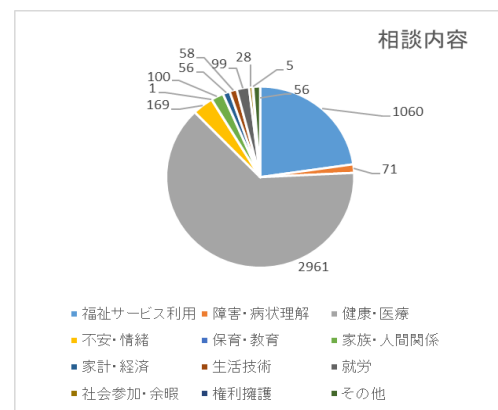
伊豆の国市、伊豆市のそれぞれの自立支援協議会の運営に携わり、地域における障害者支援、啓発活動に貢献した。本年度は伊豆の国市では運営協議委員、精神包括ケアシステム部会長、地域生活拠点の検討に協力した。伊豆市でも同様に副会長、就労部会、相談部会副会長として関わり、当

事者が地域での生活をどのような形で安心して継続できるかを検討している。余暇支援、移動の問題、通院継続のために必要な事等、課題は継続しているが、他部会員とも協同して解決を図るための取り組みを行っている。

＜支援内容内訳＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R2	783	595	100	1226	1	184	1746	32	4667
R3	550	299	48	1278	7	75	1223	11	3491
R4	518	323	48	1550	9	61	1112	21	3642

＜相談内容内訳＞



3. 総括

計画相談の依頼件数は年々増加傾向にあり、相談支援専門員2名をそれぞれ市担当にすることで効率化を図り対応している。地域移行支援についてもコロナ感染拡大の影響で、外出や訪問に制限がかかる時期があったが、医療機関と連携し、オンライン等を活用して出来る事を考えながら支援を進める事ができた。

本年度は自立支援協議会や社会福祉協議会を通じて障害の普及啓発に携わる機会を得た。特に小学生の福祉体験で講師として参加し、小学生と一緒に心の病気やメンタルヘルスを考える・学ぶ機会を得られ、改めて自分たちが伝えていく大切さを感じた。広く一般への病気や障害への理解を求める活動については継続して参画していきたいと考える。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 田方・ゆめワーク



1. 目標及び評価

1. 利用者一人一人の特性を理解し、楽しく前向きに作業に取り組めるような雰囲気や環境を作る
2. 全職員が収支や工賃アップへの意識を高め、常により良い作業環境を提供できるよう努める

近隣に同様の就労系事業所が増えたこともあり、最盛期に比べると利用者数は減少傾向にある。また、コロナ禍による社会活動の停滞の影響を受け、軽作業の受注量も伸び悩んでいる。自主製品であるパン製造・販売も小麦粉をはじめとする物価高騰の煽りを受け、授産収益としては厳しい状況が続いている。そうした厳しい状況の中、行政や市内保育園など関係機関の協力もあり、パンの出張型販売も可能な範囲で再開開始。また、職員全体で授産収益について検討を重ねることで、全員がコスト意識を持ち、業務改善を図る事ができた。

〈 職員配置 〉 (令和4年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1 名
生活支援員	1 名
職業指導員	3 名
目標工賃達成指導員	1 名
事務員	1 名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、タオルたたみ、梱包作業、鉄線加工など
- ②パン製造・販売
- ③館内トイレ清掃、建物周辺の外掃除
- ④施設外就労（中伊豆ワイナリーぶどう収穫作業）

2. 実績

年度	H30	R1	R2	R3	R4
利用実人数（人）	33	25	27	26	20
年間開所日数（日）	253	247	240	240	246
一日の平均利用者数（人）	17.1	14.0	15.4	11.9	10.7
平均工賃月額（円） （ ）内は年間最高額	10,017 (51,525)	7,903 (44,550)	10,018 (36,113)	8,388 (30,938)	10,605 (32,938)
一般就労移行者数（人）	1	1	1	0	0
（就職先業種）	老人施設 介護職員	ホームセンター園芸職員	公園清掃員		

3. 総括

今年度も新型コロナによる影響を受け、授産収益も伸び悩み、一日平均利用者数も年間11名程度と横ばい状況。近隣に同様の就労系事業所が増え飽和状態になっている為、新規利用者の増加は厳しい状況だが、行政や特別支援学校等とも連携しながら新規の利用者確保に努めたい。また、一人一人の利用者に寄り添い、利用者が楽しく充実した日々を過ごせるよう支援していきたい。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 かのん



1. 目標及び評価

1. 工賃向上と利用者への充実した作業提供を目指す
2. 感染対策や防災訓練などの各種計画やマニュアルの確認と周知の徹底

1. コロナ禍でありながらも、協力企業や職員間での連携を密に行い、利用者数の多い内職作業も途切れずに提供することが出来た。また、「軽食喫茶花のん」の弁当販売では常連のお客が増え、徐々に販売数を増やすことが出来ている。そのため、7月～毎月出勤日数に応じた奨励手当金を工賃に上乗せ支給し、年度末には就労支援（授産）収入の黒字部分を、配分金として支給。平均工賃月額も昨年度より2,000円以上、上がっている。
2. 防災訓練の中で、避難所での感染対策や基本的な手洗い等、日常の感染対策に応用できる訓練を実施。職員研修では、計画やマニュアルについての確認を行った。今年度は8月末～9月にかけて1週間ほどコロナ感染による事業所閉鎖を行うことになってしまったが、その分より一層感染対策への意識が高まった。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	8名
目標工賃達成指導員	1名

〈 作業内容 〉

- ①内職作業
箱折、組立て、縫製、自主製品製作など
- ②喫茶作業
「コーヒーショップやすらぎ」営業
「軽食喫茶花のん」弁当製造・販売
- ③施設外就労
沼津中央病院清掃・ライフセンターよつば清掃



2. 実績

年度	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
利用実人数（人）	68	58	55	58	57
年間開所日数（日）	279	277	278	278	270
一日の平均利用者数（人）	20.1	21.5	20.8	21.1	22.1
平均工賃月額（円） （ ）内は年間最高額	6,606 (32,873)	7,009 (33,880)	6,823 (25,610)	7,734 (24,622)	10,031 (29,120)
一般就労移行者数（人）	6	0	2	2	3
（就職先業種）	IT・清掃・小売 高齢者施設・ 小売・製造		農業 製造	医療 教育	小売 福祉施設 福祉施設

3. 総括

今年度は新規利用者が4名、契約終了者10名と登録者数は減少したものの、安心して通所出来る環境整備や相談体制を意識し、平均利用者数は前年度よりも増えている。10月中旬～は非常勤職員が1名増え、次年度からのピアスタッフ雇用に向けた準備も進め、今後さらに利用者の人権を尊重した質の高い支援を行える体制づくりに取り組んでいる。

就労継続支援B型支援事業

ワークショップまごころ



1. 目標及び評価

1. 利用者1人1人の能力や特性を理解し、支援の視点を共有しながらサービスを提供する
2. 事業所内の各部門の業務状況を把握し、相互に協力し合いながら生産活動を進める

年度末になり長年の課題であったクオレの朝礼導入に至り、2階内職も含めた支援の共有や日々の振り返りを行った。利用者の混乱にもつながることから、視点の共有を意識し、朝礼を継続していきたい。活動場所やフロアが分かれていることから相互の業務把握をしにくい環境となっている。それでも協力して業務を進めることが出来ていたが、年度末で2名の退職者がある事から、来期も目標を継続し相互に協力しながら支援・生産活動を進めていきたい。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	5名
目標工賃達成指導員	1名
事務員	0名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、みかんネット加工、チラシ組み
- ②ぷりん・ジェラートの製造・販売
- ③古紙回収
- ④農作業



2. 実績

年度	H30	R 1	R2	R3	R4
利用実人数 (人)	37	38	33	32	35
年間開所日数 (日)	293	290	285	292	292
一日の平均利用者数 (人)	15.8	16.3	12.2	12.8	15.5
平均工賃月額 (円)	7,669	7,485	7,069	6,885	7,991
() 内は年間最高額	(19,560)	(19,560)	(20,340)	(22,200)	(22,200)
一般就労移行者数 (人)	1	4	1	0	1
(就職先業種)	部品製造	食品製造 事務 ビル清掃 食品製造販売	商品陳列		小売業

3. 総括



「送迎してほしい」「(農業で) 体を動かしたい」「お菓子作りをしたい」とのニーズより新規利用者の確保につながり、事業所の特色を活かすことができた。また、奨励手当金の支給開始により既存の利用者の意欲向上も伺え、延べ人数増につながった。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により通所中止を余儀なくされた他法人グループホーム入所中の4名は利用再開に至らず、大幅減収は継続している。

地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

1. ピア活動やボランティアとの活動を通じて、精神保健福祉の地域啓発に努める
2. 利用者が楽しみ、充実した一日を過ごせるようプログラムを工夫し、積極的に関わる
3. 台風、地震、様々な感染症など災害及び緊急時に対応できるよう日頃から危機意識を持ち、定期的な訓練を行う

〈プログラム内容〉

創作活動、ラジオ体操、ウォーキング、料理教室、買い物ツアー、エコキャップ清掃、映画鑑賞
季節行事（クリスマス会等）、健康講話、防災訓練、文化祭、地域交流活動、田方福祉村清掃 など

2. 実績

年度	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
利用実人数	69	61	31	29	26
年間開所日数	238	238	241	240	241
一日の平均利用者数	11.6	9.6	4.6	4.8	4.6

3. 総括

今年度も新型コロナウイルス感染防止に努めながら開所。喫茶活動や買い物ツアーなども小規模で実施し利用者から好評であった。一日の平均利用者は以前に比べ減少したが、個別に交流できる時間も増えた。今後はよりピアスタッフと協働しながら、当事者主体の活動を支援していきたい。



地域活動支援センター事業

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

ピア主体の活動を念頭に地域活動支援センターの活動内容について柔軟な視点と取り組みをしながら都度検討していく

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動（塗り絵、タブレットでゲーム、YouTube で動画閲覧、カードゲーム、新聞・読書）
スポーツ（ウォーキング、卓球）、地域交流活動（ピアスタッフとの交流）、DVD鑑賞会、季節行事（初詣、花見）

2. 実績 ※サテライト伊東（月2回実施）

年度	H30	R 1	R 1	R 3	R 4
利用実人数	99	76	74	69	65
年間開所日数	241	235	226	221	243
一日の平均利用者数	9.8	10.5	7.8	8.0	8.0

3. 総括

地域活動支援センター事業については昨年度と同様に外出のレクリエーションは積極的には行えなかったが、事業所内での料理教室や卓球、ゲーム大会は通常通り行い参加者も多数参加される。また、月に1回ピアスタッフ（精神障害がありながら職員として勤務する方々）が来所する日に合わせて利用される方もいて、何度か顔を合わせることで気軽に話が出来る関係性が構築できてきたように感じる。令和5年度は利用者が希望する外出レクリエーションも感染状況をみながら開催できると良いと考える。

IV 地域貢献活動

(1) 精神保健相談

事業所別	回数	内 容	担 当	主 催 又 は 後 援
サポートセンターゆめワーク	年 6 回	伊豆市サテライト相談会	池 田 友 美	伊豆市
サポートセンターなかいせ	年 12 回	沼津市障害者専門相談会	内 藤 治 子	沼津市社会福祉協議会

(2) 講演開催状況 (講師)

年 月 日	実 施 場 所	テ ー マ	講 師	主 催 又 は 後 援
R4. 6. 17	オンライン	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木 伸二 石 川 淳 山崎 将展	静岡県精神保健福祉センター
R4. 8. 10	あざれあ	令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 基礎研修講師	石 川 淳 山崎 将展	静岡県
R4. 9. 3	熱海市社会福祉協議会	熱海市市民後見人養成講座	秋津 崇史	熱海市社会福祉協議会
R4. 11. 2	伊東市役所	伊東市ゲートキーパー養成研修	石田 由貴	伊東市健康推進課
R4. 11. 11	伊東市社会福祉協議会	伊東市市民後見人養成講座	秋津 崇史	伊東市社会福祉協議会
R4. 11. 15	もくせい会館	令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 専門研修	石川 淳 山崎 将展	静岡県
R4. 11. 19	伊豆の国市役所大仁支所	伊豆の国市メンタルヘルス懇話会	武井 紗知	伊豆の国市地域自立支援協議会
R4. 12. 5	三島市社会福祉協議会	令和 4 年度駿東田方圏域「ピア MEETS ピア」三島会場	石 川 淳 山崎 将展	駿東田方圏域地域移行部会
R5. 1. 25	御殿場市役所	令和 4 年度駿東田方圏域「ピア MEETS ピア」御殿場会場	石 川 淳 山崎 将展	駿東田方圏域地域移行部会
R5. 2. 10	もくせい会館	令和 4 年度静岡県精神障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修	石 川 淳 山崎 将展	静岡県
R5. 3. 14	静岡県東部総合庁舎	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会研修会	鈴木 伸二 山田 典子	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会
R5. 3. 24	伊豆の国市役所くぬぎ会館	伊豆の国市春の小学生福祉講座	小山千菜美 武井 紗知	伊豆の国市社会福祉協議会

(3) 公的機関の医療・福祉活動への協力

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	東部健康福祉センター	鈴 木 伸 二
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部 会 長	熱海健康福祉センター	秋 津 崇 史
熱海市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	熱海市	鈴 木 伸 二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部 会 長	熱海市・伊東市	秋 津 崇 史
伊東市障害支援区分判定等審査会	審 査 委 員	伊東市	鈴 木 伸 二
伊豆市地域自立支援協議会	副 会 長	伊豆市	青 木 大 輔
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審 査 委 員	伊豆市・伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協 議 ・ 運 営 委 員	伊豆の国市	青 木 大 輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部 会 長	伊豆の国市	小 山 千 菜 美
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調 査 員	伊豆の国市	小 山 千 菜 美 武 井 紗 知 杉 山 美 幸

沼津市障害者自立支援協議会	副 会 長	沼津市	牛 島 聖 美
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部 会 長	沼津市	鈴 木 伸 二
沼津市障害者支援区分認定調査	調 査 員	沼津市	内 藤 治 子
裾野市障害支援区分判定審査会	審 査 委 員	裾野市	杉 山 智 子
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部 会 長	富士市	田 尻 ゆ き
富士市障害者自立支援協議会	会 長	富士市	長 谷 川 真 美
富士市障害者自立支援協議会	事 務 局 長	富士市	田 尻 ゆ き
清水町障害支援区分認定審査会	審 査 委 員	清水町	勝 又 美 智 子

(4) 実習受託

区 分	委 託 施 設 ・ 機 関 等	実 習 担 当
就労支援事業所かのん	御殿場看護学校	杉山 智子
就労支援事業所かのん	静岡医療センター附属静岡看護学校	杉山 智子
就労支援事業所かのん	沼津市立看護専門学校	杉山 智子
就労支援事業所かのん	静岡県立看護専門学校	杉山 智子
ワークショップまごころ	静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科	勝又 美智子
ワークショップまごころ	順天堂大学 保健看護学部	勝又 美智子
ワークショップまごころ	聖徳大学 通信教育部 心理・福祉学部	勝又 美智子
田方・ゆめワーク	静岡県立沼津特別支援学校	青木 大輔

(5) 大学・看護学校への講師派遣

区 分	施 設 名	講 師
サポートセンターなかせ	東都大学沼津ヒューマンケア学部	鈴木 伸二、石川 淳、山崎 将展
サポートセンターゆめワーク	沼津市立看護専門学校	青木 大輔
サポートセンターなかせ	沼津市立看護専門学校	山下 圭美

(6) 受託事業

所 属	受 託 事 業 名	担 当 者
サポートセンターなかせ	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業	牛島 聖美
サポートセンターなかせ	長泉町重層の支援体制整備準備事業	牛島 聖美

V 教育研修

業務管理及び研修出張

年月日	内 容	氏 名
R4. 4. 26	静岡県障害者支援区分認定調査員研修	武井紗知 杉山美幸
R4. 5 月～8 月	精神保健福祉業務基礎研修	上原慶子 川口実
R4. 5 月～12 月	令和 4 年度相談支援従事者現任研修	杉山智子 望月典子 伊藤田恵子 池田友美
R4. 6. 16	静岡県食品衛生管理講習	武井紗知
R4. 6. 17	食品衛生責任者管理講習会	飯塚千佳子
R4. 6. 25	令和 4 年度伊豆の国市社会福祉大会・表彰式	青木大輔
R4. 7 月～12 月	令和 4 年度精神保健福祉業務基礎研修	川口実
R4. 8 月～12 月	令和 4 年度相談支援専門員初任者研修	上柳光
R4. 8 月～R5. 2 月	静岡県精神障害者ピアサポート養成研修 (基礎・実践・フォローアップ)	鈴木伸二 牛島聖美 石川淳 山崎将展
R4. 8. 16	依存症問題従事者研修	望月典子 伊藤悠美子
R4. 10 月～12 月	包括的相談支援体制構築事業人材養成研修	牛島聖美
R4. 10. 7	福祉・介護施設の管理者等を対象とした感染症対策講座	水野恵 牛島聖美
R4. 11. 20	駿豆学園創立 50 周年記念式典	青木大輔
R4. 11. 24	静岡県サービス管理責任者等更新研修	山下圭美
R4. 11. 28	令和 4 年度障害児・者福祉サービス事業者説明会（集団指導）	勝又美智子 青木大輔 長谷川真美 鈴木伸二 杉山智子 水野恵 伊藤田恵子 秋津崇史
R4. 12. 3	静岡県ピア交流会	牛島聖美 鈴木伸二 山下圭美 石川淳 山崎将展
R4. 12. 5、R5. 1. 25	駿東田方圏域地域移行部会ピア meets ピア	牛島聖美 鈴木伸二 山下圭美 石川淳 山崎将展
R4. 12. 6	安全運転管理者講習	青木大輔
R4. 12. 19	伊豆市市民後見人育成事業勉強会	武井紗知
R5. 1. 25～2. 1	静岡県主任相談支援専門員研修	長谷川真美 鈴木伸二
R5. 1. 30	精神障害者地域移行定着推進研修	牛島聖美 鈴木伸二 池田友美 石川淳 山崎将展
R5. 2. 14	静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修	小山千菜美

VI 令和5年度 事業計画

1. 事業部全体

運営方針（事業部）

誰もが自分らしく暮らす事の出来る地域共生社会の実現を目指します

そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、障害者に寄り添う包括的な支援を行います

また、地域や障害者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員とともにデザインする事で、チーム意識ややりがいを持てるような、組織の強化に取り組みます

重点目標

- ① 障害者の人権を守るために何が出来るかを常に考えた支援を行う
- ② ピアスタッフの更なる雇用と働きやすい環境づくり
- ③ 災害感染対策の見直しと地域との協働
- ④ 人材確保のためのリクルート体制整備

（1）相談支援・地域活動支援センター事業

- ① 目の前のクライアントへの関わりから個別の課題だけでなく地域の共通した課題に対する意識を持ち、希望する生活を支援するため制度や社会資源等を活用・コーディネートすると同時に自立支援協議会等を活用する視点をもつ
- ② 各市町単位の実情を把握し、各相談支援専門員が積極的・主体的に地域づくりへ参画し、ピアスタッフ・ピアサポーターとの協働、啓発活動を通して権利擁護の観点を意識し、医療機関・行政・事業所等にも地域移行支援等を活用し働きかける
- ③ 法人内の相談支援事業所間の情報共有・連携を図り、地域の実情や災害等の状況に柔軟に対応できるよう相談支援体制の構築を目指すと共に個々の相談支援専門員のスキルアップを図る等人材育成の視点を持ち、外部研修等にも積極的に参加する

- ④ 地域活動支援センターにおいては、地域の状況や特徴、利用者のニーズ等踏まえ事業を展開し、憩いの場及び仲間づくりの場などの機能が果たせるよう創意工夫し、ピア活動やボランティア育成にもより力を入れ、地域作りの拠点となるよう努める

（2）共同生活援助事業（グループホーム）

- ① 利用者の「主体性・個別性」と集団生活における「協調性・思いやり」の調和を図り、利用者自身の夢実現の過程に寄り添う支援を行うご家族との繋がりが途切れることのないよう、双方の思いを聴き心情を汲みとりながら不安解消に努める
- ② 共同生活援助事業の期待に応えるべく、積極的に地域に出る機会を持ち、地域にGHがある事を強みに感じてもらえるような運営を目指す
どのようなサービスを展開し課題はどのようなことか等、積み上がった課題に対して自立支援協議会等で協議する
- ③ 障害・疾患だけで利用者を見るのではなく、「個」として利用者を見て支援ができるよう職員のスキルアップを図り、目の前の利用者に精一杯向き合う。また、地域社会に対し精神疾患や障害に対する認識をより良いものにするよう貢献する
- ④ 見通しを持ちながら未来を読む・聴く力を身につけ、利用者や地域に必要とされる方法・将来的にも事業の安定が図られる方法を模索する

（3）就労支援事業（B型）

- ① 近隣他事業所の動向を把握しながらサービスの充実を図り、新規利用者の確保に努める。また、利用者が安定して利用継続できるよう関係機関との連携を図り、個別の特性に応じた支援体制を築く
- ② 職員は研修参加や事業所内での勉強会を通じて自己研鑽に励み、障害や就労支援の理解を深めるとともに、虐待防止に努める。また、ピアスタッフとの協働を目指し、働きやすい環境の構築のための知識を身に着ける

- ③ 自立支援協議会等、地域活動に積極的に参画し、障害者雇用に関する普及啓発及び理解ある一般企業の開拓に取り組む
- ④ 地域・関係機関と連携しながら、日々の感染対策や防災訓練を見直し、強化することで利用者・職員が安心して作業の行える環境を整える

2. 各事業所 事業目標

【共同生活援助】

グループホーム コーポ狩野

- ① 利用者の「主体性・個別性」と集団生活における「協調性・思いやり」の調和を図りながら、夢の実現を支援する
- ② 障害・疾病だけで利用者を見るのではなく、「個」として支援が出来るようスキルアップを図る
- ③ 感染症や災害に対する必要な対策を講じ、利用者の身の安全と不安に配慮しながら命・暮らしを守る

グループホーム はまゆう寮・カーサ岡の宮

- ① 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、いいところ（強み）を見つける
- ② スタッフ間や関係部署との情報共有を積極的に行う
- ③ 地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する

グループホーム ふじみ

- ① 利用者の希望実現を目指し、応援・援助をする
- ② 感染症予防対策を確実に行う

【相談支援事業

・地域活動支援センター】

サポートセンターなかせ

- ① 利用者の権利擁護の観点を常にもち、丁寧な個別支援と先々を見越した視点に立った適切な関係機関との役割分担・連携の両立を図る
- ② ピアスタッフとの協働を通して日頃の職場環境をより働きやすいものとし利用者の利益に繋げる
- ③ 夜間休日も含めた緊急時の体制整備を行う
- ④ 事業所・法人・地域それぞれの枠組みでの人材育成を意識した取り組みを行う

サポートセンターりりぶ

- ① 個別のケースを通しアセスメントを行い、支援過程や見解を周囲に発信できる力を養う
- ② 地域域活動支援センターの活動内容をブラッシュアップする視点を持つ

- ③職員一人ひとりが健康で働きやすい環境にするために、日々のコミュニケーションを大事にする

サポートセンターほっと

- ①状況に応じた支援を提供できるように、本人、家族、他機関と現状と支援方針を共有する機会を積極的に設ける
- ②地域移行支援を活用し、退院までのプロセスを病院と協働していける体制を構築する
- ③自立支援協議会への積極的な参加

サポートセンターひまり

- ①利用者とあたたかい関係を築き、本人の強みに着目しながら、他機関と連携し主体的に生活できることを支援する
- ②三島市基幹相談センターへ主体的に参画し、事業所内での役割分担を行い効率化を図る
- ③地域生活拠点事業の開始を踏まえて、支援の見直しや関係機関との連携の強化に努める
- ④ケース支援や事業所間での関わりを通し、支援者間のつながりを深めていく

サポートセンターゆめワーク

(相談支援事業)

- ①ピアスタッフと協働しながら地域移行支援に取り組み、当事者が地域で安心した生活ができるよう支援する
- ②福祉講座、講演会など積極的に協力し、地域における精神保健福祉の普及に努める

(地域活動支援センター事業)

- ③ピア活動と連動しながら、ピアサポーターやボランティアの育成に取り組む
- ④利用者の主体性を尊重し、個々の目標やチャレンジしたいこと等を活動に取り組めるよう工夫する

【就労継続支援 B 型】

田方・ゆめワーク

- ①利用者個々の障害特性を理解し、利用者がそれぞれの目標達成ができるよう支援する
- ②全職員が工賃アップへの意識を高め、授産製品の開発、販売先の開拓など具体的に取り組む

かのん

- ①丁寧な個別支援計画の作成と、それに基づいた支援の共有を職員間で徹底する
- ②ピアスタッフが安心して働くことの出来る体制を整え、ピアスタッフとの協働による支援の充実を目指す

ワークショップまごころ

- ①利用者 1 人 1 人の能力や特性を理解し、支援の視点を共有しながらサービスを提供する
- ②事業所内の各部門の業務状況を把握し、相互に協力し合いながら生産活動を進める